



●年賀状をありがとう

毎年、暮れも押し詰まり、急いで年賀状を書きます。何年もご無沙汰している相手を思い出し、ペンを走らせます。日ごろお世話になつていの方、故郷の親類、友達…。その中で毎年楽しみにしている年賀状があり、今年も元旦に届きました。

一年の計は元旦にあり、  
 パパ【仲良くやればいじやないか】  
 ママ【今年も元気でがんばります】  
 長男【やつと成人】  
 次男【食べて寝て勉強】  
 三男【美しい心】

今年手作りの粘土細工のお飾り、満面の笑みで書初めを下げている写真がプリントされています。NHKの朝ドラ「ごちそうさん」をモチーフにしたとても手の込んだ、工夫された年賀状でした。随分と時間もかかっただろうに、よくここまでがんばれたとホッとファミリーの真心の年賀状を読むたびに楽しくなります。毎年心待ちにしています。ありがとう。

（横浜市／E・M）

●初日の出であらう

毎年、今年こそは初日の出を拝もうと、海か山かと話が出ますが実現できずにいました。今年は無理せず自然体であるがまま、8階の屋上から家族で初日の出を拝みました。

東京でなければ味わえない、高層ビルの谷間からお日様が顔を出し、まばゆいばかりの輝きで、大都会が一変して美しく光り輝きました。

さあ今年も心新たにがんばろう！自分らしくと願い、勇気と力を初日の出からいただきました。富士山も薄く姿を見せ清々しい初日の出を拝み、近所の神社に初詣で家族の健康を祈願し、風もなく穏やかな平成二十六年を迎えることができました。

（新宿区／K・H）

●お酒よ、ありがとう

大きな声では言えないが、お酒は十七歳から飲んでいる。以来、酒歴は五十年をとうに過ぎていく。今でこそ酒量は晩酌程度になったが、血気盛んな若い頃は健康への気配りなど、どこ吹く風で酒が入れば怖いものなしで、気の弱さを酒の力を借りて補っていた。

そうして夜ごと盛り場を彷徨しては酩酊していた。そして初対面の人とでも酒が介在すれば、会話がはずみたちまち意気投合した。盃を交わすごとにお互いの本音が出るからだろう。呑んべえ仲間たちとは、もつともらしい名目で飲み屋に参集、挙句のも

果てのバカ騒ぎ。

酒の適量を知るのは、かなり後年になってからで「身体に気をつける。周囲からの忠告も何のその深酒の習慣断ちがたく、いい気になっていった結果は入院切腹という最悪の答えだった。

その後、若い頃からの呑んべえ仲間たちも、寄る年波で往時ほどの行き来は少なくなつたが、時おり催される会合の間を取り待つのは、やはり酒である。

新年を迎えて飲む機会が多いと思えます。そこで老婆心から一言、習慣的な深酒や喫煙による不摂生の附けは、晩年になってから必ず現れます。くだいようですが適量を心掛けてください。

手術は無事に済み生還をしたが、今でも後遺症があり医師からは酒は慎むように言われていますが、残りの少ない余生を思えば了承しがたく、夜のたばろが下りれば愛する酒に会いたくなる。

思えば良きにつけ悪しきにつけ何時も酒が側にいた。長いことお世話になったが、お酒よもう少しの間だけ付き合ってくれ。乾杯。そして、ありがとう。

（世田谷区／H・A）



●家族にありがとう

今一人暮らしの私の所に、毎年暮れになると息子夫婦が大掃除に来てくれます。三十一日から息子夫婦、娘夫婦と孫に今年は曾孫も授かり、総勢十名でにぎやかに年を越すこと

ができました。

今年で八十三歳になる私は年を重ねだんだん味覚が鈍くなり、薄いかな、甘すぎるかなと迷いながら三日間かかって作ったお節料理に、みんな「おばあちゃんの作ったお節は心がこもっておいしい。」と喜んで食べてくれます。私は「ほめてくれてありがとう。」と言うと、孫たちは「作ってくれてありがとう。」とありがとう、ありがとうの声が飛び交いました。

みんなで近況を報告し合い、会社のこと、彼氏のこと、いろんな話が出ます。おばあちゃんとおじいちゃんの出会いはと聞かれ、「おばあちゃんはお父さんが早くに亡くなり、母と二人で暮らしていたので結婚しないで一生母と暮らそうと思つていたけど、おばあちゃんが結婚しないと母が心配すると思ひ、紹介してもらつたおじいちゃんと縁あつて結ばれたのよ。」と話すと、孫たちは「良かったよ。」と話すと、おばあちゃんと一緒にあったから、私たちは今こうしてみんなであられるんだね。」とみんなで大笑いしました。

五ヶ月になった曾孫はかわいかわいといとみんなに代わる代わる抱っこされても泣かずに笑顔。何とありがたいことでしょう。

息子「お袋、元気でいてくれてありがとう。」  
 孫たち「おばあちゃん、いつまでも元気でいてね。」  
 家族の優しさ温かさで今年のお正月もたくさん元気をいただきました。ありがとう。また来年のお正月に向けてどんなお節にしようかな。

（水戸市／N・A）

●地域のみなさまよ、

ありがとう

大晦日の夜十時ごろ、急ぎの様を終えて家に帰る時、「火の用心。」の声と力手力子と拍子木の音が聴こえてきた。地元の消防団員と町会の役員だろ

う人たちが十人ほど、提灯と懐中電灯を手に夜警をしていた。消防団員以外はみな還暦を過ぎた人だろうと思う。この寒空に、家でゆっくりしている

時間には地元地域を見守っている姿に自然と声をかけたくなり、「みなさん、お疲れ様。」と大きな声で感謝した。みなもお互いに大声で「ありがとう！お元気で。」と別れた。

なかなか暮れの三十一日の夜まで、地域を守ってくれる人がいない中で本当にありがた



●不屈の人生の過ごし方に

ありがとう

乙武洋匡さんの「自分を愛する力」を読みました。彼は「五体不満足」で一躍有名になりました。手足がなくて

小説を曲げたりすることはありません。一浪して第一志望の早稲田大学に入

学しました。自分を愛する力で世間の荒波を乗り越えています。この力を持つことに私は共感を覚え、一気に読破しました。

日常、足が痛い、腰が痛いと言っている私ですが、杖とキャリーがあればどこへでも行けます。リハビリにも病院にも趣味の用品にも通っています。手

も足もあるのですから水泳にも行けます。勿論、出先で手を貸してくれる人も多々います。そんな時は声を出して「ありがとう。」と言います。

乙武さんは両親の愛を一身に受けて、様々な困難に打ち勝っています。パソコンもハサミも器用に「なし」、口を使って文字を書くこともできます。父親は亡くなりましたが、母親が看てられています。

両親に「こんな身体に産んで。」等という、恨みがましいことは一切ありません。この両親のお陰で「自分を愛する力」が育まれたのだと言っています。この力があれば「他人を愛する力」も生まれてきます。今では妻と二人の息子と温かい家庭を築いています。

また、なんと教員免許を取り、杉並区の小学校で三年間、期限付きですが学級担任として過ごした経験があります。さらに教育委員として教育に携わり子供たちの健全育成に尽力しています。

自分のことが大好きということ、自己肯定感を持つことが様々なエネルギーの源になっています。

乙武さんの不屈の人生の過ごし方に「ありがとう」を言います。(目黒区/O・H)

●湯たんぽにありがとう

久しぶりに主人と二人で風邪をひきました。急性気管支炎になり三十九度の熱を出しました。湯たんぽを用意し4~5日間熱が下がるのを待ちました。

お湯を沸かし湯たんぽに入れてみると、息子が「ずいぶん長く使っているね。」と言いました。そういえば、息子が熱を出した時によく使っていました。かれこれ二十年にもなります。本当に長くがんばってくれた湯たんぽに「ありがとう」。

今もお湯を沸かし湯たんぽに入れ、寒い冬に温かくしてもらっています。(さいたま市/M・U)

●梅の木にありがとう

我家の狭い庭にある1本の梅の木は十二月になると毎日たくさんの葉を落とします。私は棒で叩いて葉を落としますが、

落とした木の枝の先をよく見ると、小さなつぼみがついていました。春の準備をしてから葉が落ちるのだと思い、自然に葉が落ちるのを待つことにしました。北風が吹くと、狭い庭は葉っぱでいっぱいになりました。

三月初めになると薄いピンクの(紅梅)花は香り良くかわいく咲いてくれます。ウグイス、メジロ、ヒヨドリたちが蜜を吸いに來ます。花弁も食べていくようです。実った梅は梅酒にしようと思っています。梅の木にありがとう。(板橋区/T・Y)

【携帯 Deショット】

事務所近くの春日交差点の一角にあるミニ花壇には、連日の寒さにも耐えて『ピオラ』の花が植えられている。ヨーロッパ原産のスマイレとパンジーの交配種。冬の花壇を色鮮やかに楽しませてくれます。花言葉…誠実、信頼、忠実



- 携帯電話の方はQRコードから →→→
●パソコンの方は下記のURLから ↓
http://1039.seesaa.net/
●メールでのご投稿は…
info@holonics.gr.jp



【編集・企画】株式会社ホロニックス総研・編集部

【原稿をお待ちしています。】

本誌は北海道から沖縄までの友人知人から寄せていただいた「ありがとう」のことにちなり、俳句、短歌、写真、詩、俳句、短歌、写真、絵画などを掲載します。作品は編集部までお送りください。投稿いただく方には、ささやかではございますが、オリジナル「ありがとうマガネ拭き」をプレゼントさせていただきます。



皆様からのご投稿をお待ちしております。また、ご自分のお名前や事業所名を刷り込んで、身近な方やお客様へ配布されては、いかがでしょうか。編集へのご意見やご提案がございましたら是非ともお聞かせください。

